

新型コロナウイルス感染症等に対応した 避難所開設・運営訓練メニュー

枚方市危機管理室

目次

1. はじめに

2. 感染症に対応した 避難所開設・運営のポイント

- ・避難者受入の流れ
- ・皆で心がける共通事項

3. 事前調整編

- ・検討すべき事項
- ・メニュー① 総合受付
- ・メニュー② 体調不良者滞在エリア
- ・メニュー③ 一般者エリア

4. 訓練実施編

- ・メニュー① 総合受付
- ・メニュー② 体調不良者滞在エリア
- ・メニュー③ 一般者エリア

5. 訓練後(共有化)

- ・振り返りチェックシート

6. 《補助資料》

- ・健康チェックふりわけ手順
- ・症状チェックシート

1.はじめに

○新型コロナウイルス感染症対策に対応した避難所の開設・運営を行うにあたり、各校区自主防災組織、避難所派遣職員及び施設管理者が協働して現地で必要なスペースや様々な手順を確認しておくこと（＝訓練）は重要と考えております。

○訓練を行うには、参加者の役割分担、避難所レイアウトの指定、必要物品の把握など、事前準備が不可欠のため、事前調整と現地確認を行った上で、運営開設訓練に臨む方が望ましいです。

○訓練で得た知識や経験は、今後、文書・動画等に編纂し全校区で共有していきたいと考えています。

事前調整

現地確認

訓練

共有化

2. 感染症に対応した避難所開設・運営のポイント

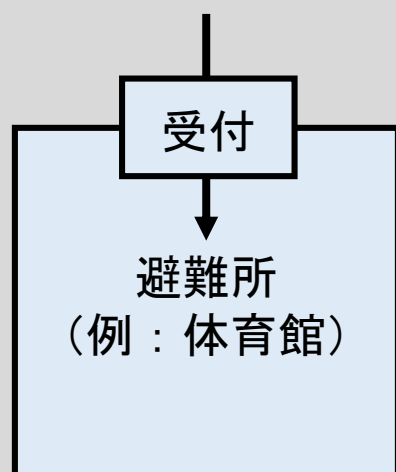
①避難者受入の流れ

○「総合受付」を設けて、検温と体調に関する申告をしてもらい、健康な方は「一般者エリア」に、体調不良の方は「体調不良者エリア」に移動していただきます。

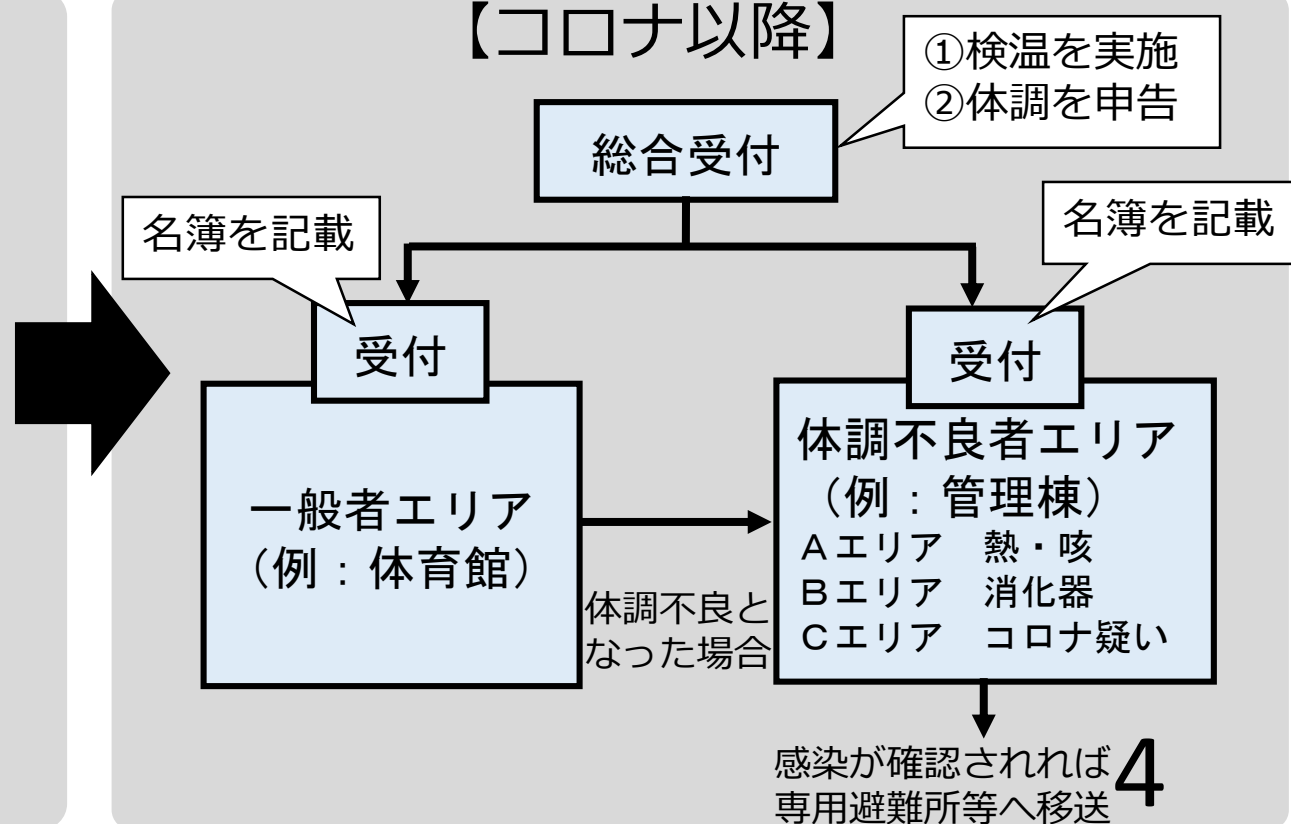
○「体調不良者エリア」は避難者の症状に応じてA・B・Cの3エリアに分かれています。

○既に感染している方が避難する場合は、この避難所とは別の「専用避難所（場所：非公開）」に避難していただきます。

【従来】



【コロナ以降】



2. 感染症に対応した避難所開設・運営のポイント

②皆で心がける共通事項

○避難者・避難所を運営する方は、マスクを着用、こまめに手洗いを行い、避難所生活中は毎日体温・体調を確認する。

○総合受付担当・体調不良エリア従事者は、フェイスシールド、雨合羽、ゴム手袋を着用する。

○居住エリアの定期的換気を実施する。体育館は全ての窓を開放する。それ以外は対角線上の2方向の窓を開放し、風通しをつくる。

○人と人との間は密にならないように空けることを意識し、2m（最低1m）の間隔を空ける。（例：避難者に並んでもらう時、避難所内のベッド・間仕切りの設営時）

○ごみ箱から感染拡大の可能性があるので、ごみ箱は各フロアで一か所程度に集約する。ごみは各世帯でごみ袋に密閉して入れて、ごみ箱に廃棄する。

○靴はビニール袋に入れて各自で保管する。

受付に並ぶ列

受付



2m 2m

「2m」は大人の歩幅で3歩が目安



総合受付担当と 体調不良エリア従事者の服装

マスク、フェイスシールド
雨合羽、ゴム手袋

3. 事前調整編－検討すべき事項

○事前調整にて検討する事項は下記が考えられます。事前調整参加者は少人数（訓練参加するコアメンバー等）の方が意思決定がスムーズです。

○事前調整の際、あらかじめ校舎レイアウトを用意していると、避難所レイアウトをイメージしやすいです。

○時間が無い場合などは事前調整と現地確認をまとめて行うのも一つです。

☐ 避難所レイアウトの検討

☐ 総合受付

☐ 一般エリア（体育館など）

☐ 体調不良者滞在エリア（管理棟など）

☐ 各エリアの専用通路、トイレ

☐ 立入禁止、立入制限スペース

☐ 避難者の動線

☐ 訓練参加者の確認と役割分担

☐ 学校からの借用物品の確認

（例：受付台用のテーブル）

☐ 訓練に必要な備品

☐ 体温計（非接触型）

☐ マスク

☐ アルコール消毒液

☐ ウェットティッシュ

☐ フェイスシールド

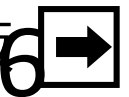
☐ ビニールシート

☐ 使い捨てゴム手袋

☐ ごみ袋

☐ 雨合羽

☐ エリア誘導の表示板



3. 事前調整編 メニュー① 総合受付

○総合受付は、できるだけ密になりにくく、正門玄関に来られた避難者から見てわかる場所に設置してください（例：管理棟の職員玄関口）。

○総合受付で避難者の健康状態を確認します。感染予防の観点から受付を待つ避難者の列と、受付終了後に各エリアに移動する動線は重ならないようにしてください。

！ 各動線が重ならないよう注意

体調不良者エリア
(例：管理棟)

▼健康状態を確認

- ・検温（37.5度 以上or未満）
- ・症状チェックシートで確認

一般者エリア
(例：体育館)

総合受付

正門

2 m（最低 1 m）で整列

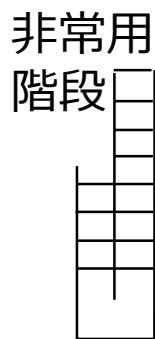
3. 事前調整編 メニュー② 体調不良者滞在エリア

○体調不良者エリアは一般エリアと別棟に設定し、体調不良者専用の通路・階段を確保できるか検討してください。確保できなくても、時間的分離・消毒ができるか工夫して下さい。

○熱咳（A）・コロナ疑い（C）と消化器（B）は別フロアにするか、難しい場合は距離を置くよう配置してください（Bはノロウイルス等の感染が考えられるため）。

トイレは、A、B、Cエリアの滞在者ごとに設置することが望ましい。男性・女性用だけでなく、多目的用トイレの活用も有効。蛇口に触れない自動水栓があれば良い（例：管理棟）。

建物内階段は教員等一般者も使用するため、体調不良者とは区別できるか検討してください。建物屋外の非常用階段を利用するのも一つです。



3階

受付

A 熱・咳

トイレ

階段

C コロナ疑い

2階

受付

B 消化器

トイレ

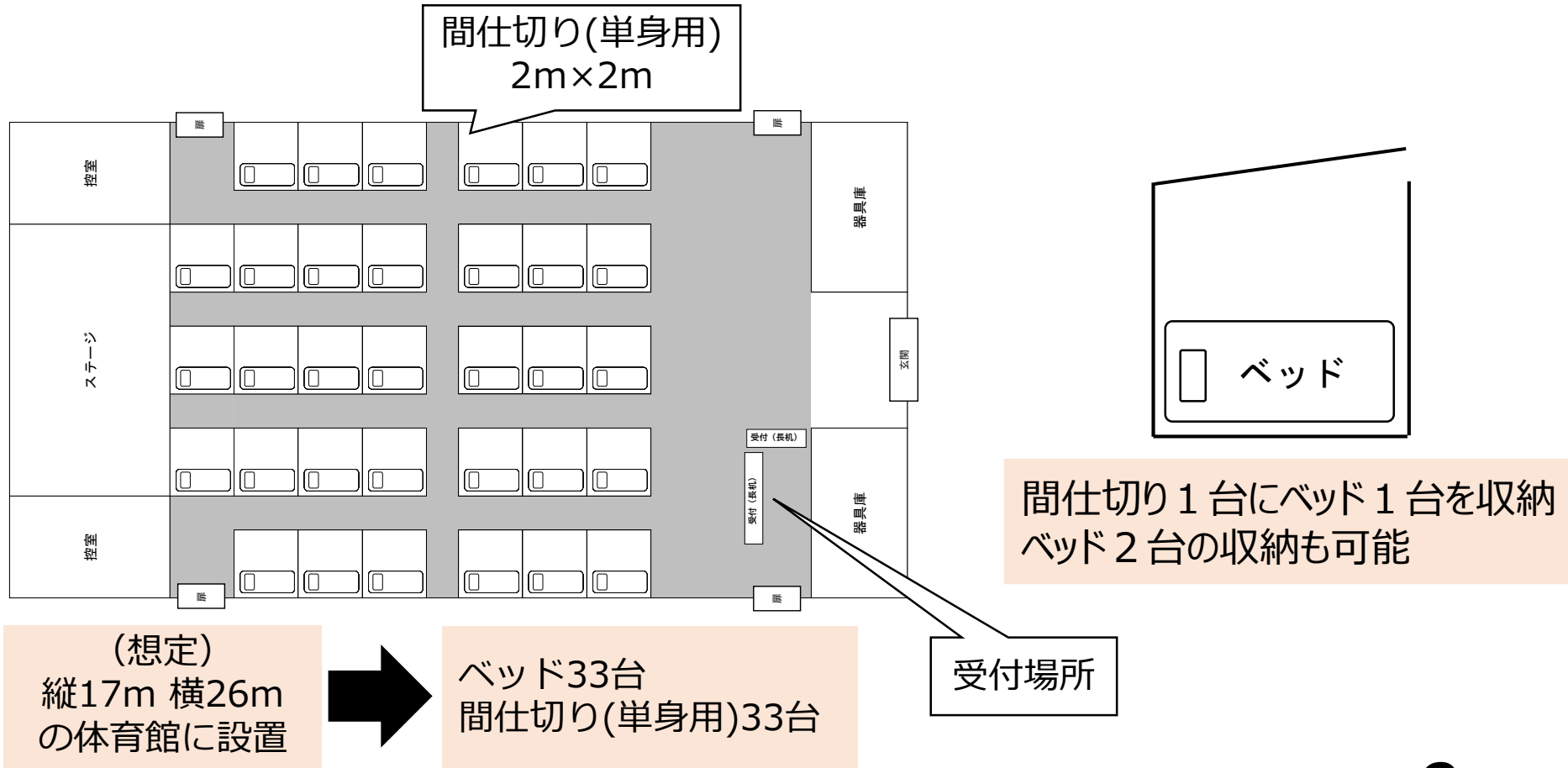
階段

8

3. 事前調整編 メニュー③ 一般者エリア

○受付場所を決定してください。

○間仕切り（縦2m×横2m）とベッドをそれぞれ2m（最低1m）間隔で設置できるか検討してください。



4. 訓練実施編 メニュー① 総合受付(設営)

- 総合受付に受付用テーブルと椅子を設置する。
- 備品（体温計2台、消毒液、マスク、フェイスシールド、使い捨てゴム手袋、ごみ袋等）を用意する。
- 避難者が2m（最低1m）で並べるか確認。誘導用の表示板を貼る。 ➡

! 各動線が重ならないよう注意

【総合受付】

- ・受付用テーブルと椅子
- ・体温計2台、消毒液、マスク、ごみ袋

体調不良者エリア
(例：管理棟)

総合受付

一般者エリア
(例：体育館)

正門

2m（最低1m）で整列できるか確認

4. 訓練実施編 メニュー① 総合受付(受入れ)

○正門から入ってきた避難者を総合受付まで誘導。2m間隔で並んでもらう。

【想定：正門前1名、総合受付2名、誘導4名、避難者5名】

○体温計で検温。症状チェックシートで健康状態をチェックする。

○体温37.5度未満・体調不良なしなら一般エリアに、37.5度以上・体調不良の訴えなら、A B Cのいずれかのエリア名を伝え、体調不良者エリアに行くよう案内する。

・体温37.5度未満
・体調不良なし の場合
(※持病の申告は
いったん一般エリア)

・体温37.5度以上
・体調不良の訴え の場合

体調不良者エリア
(例：管理棟)

避難者を検温、症状チェックシートで健康状態を確認

総合受付

一般者エリア
(例：体育館)

正門

2m (最低1m) で整列

4. 訓練実施編 メニュー② 体調不良者滞在エリア（設営）

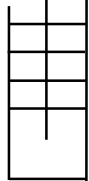
- 受付用テーブルと椅子を設置する（避難者が2m間隔で並べるか確認）。
- 備品（体温計、消毒液、マスク、フェイスシールド、使い捨てゴム手袋、ごみ袋等）を用意する。
- A、B、Cエリアの表示板を貼る。間仕切り、ベッドを2m間隔で設置する。
- トイレにA、B、Cエリアの表示板を貼る。消毒液を設置、手洗い啓発用ポスターを貼る。

【受付】
・テーブル、椅子を設置
・避難者が2m間隔で並べるか確認

【各部屋】
・A、B、Cエリアの表示板を貼る
・ベッドの設営。間仕切りなくても間隔は2m

【トイレ】
・A、B、Cの看板貼る
・消毒液、啓発ポスターを設置

非常用
階段



3
階

受付

A 熱・咳

トイレ

階段

C コロナ疑い

2
階

受付

B 消化器

トイレ

階段

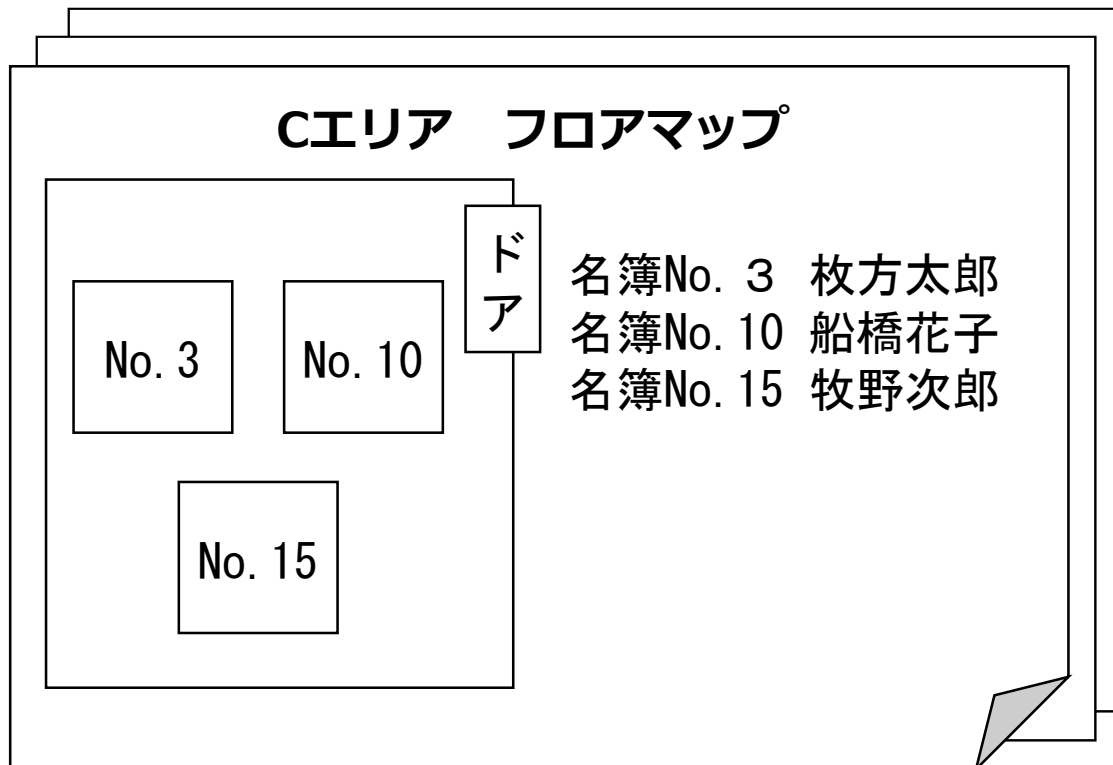
12

4. 訓練実施編 メニュー② 体調不良者滞在エリア(受入れ)

○受付で避難者に避難者名簿を記載してもらう。避難者が多ければ2m間隔で並んでもらう。【想定：受付2名、避難者3名】

○総合受付で確認したABCのどのエリアに該当するから再確認し、いずれかのエリアに誘導する。その際、利用可能なトイレ・通路・階段を伝える。

○受付者は、避難者の滞在エリア・区画を把握するため、フロアマップを作成する。

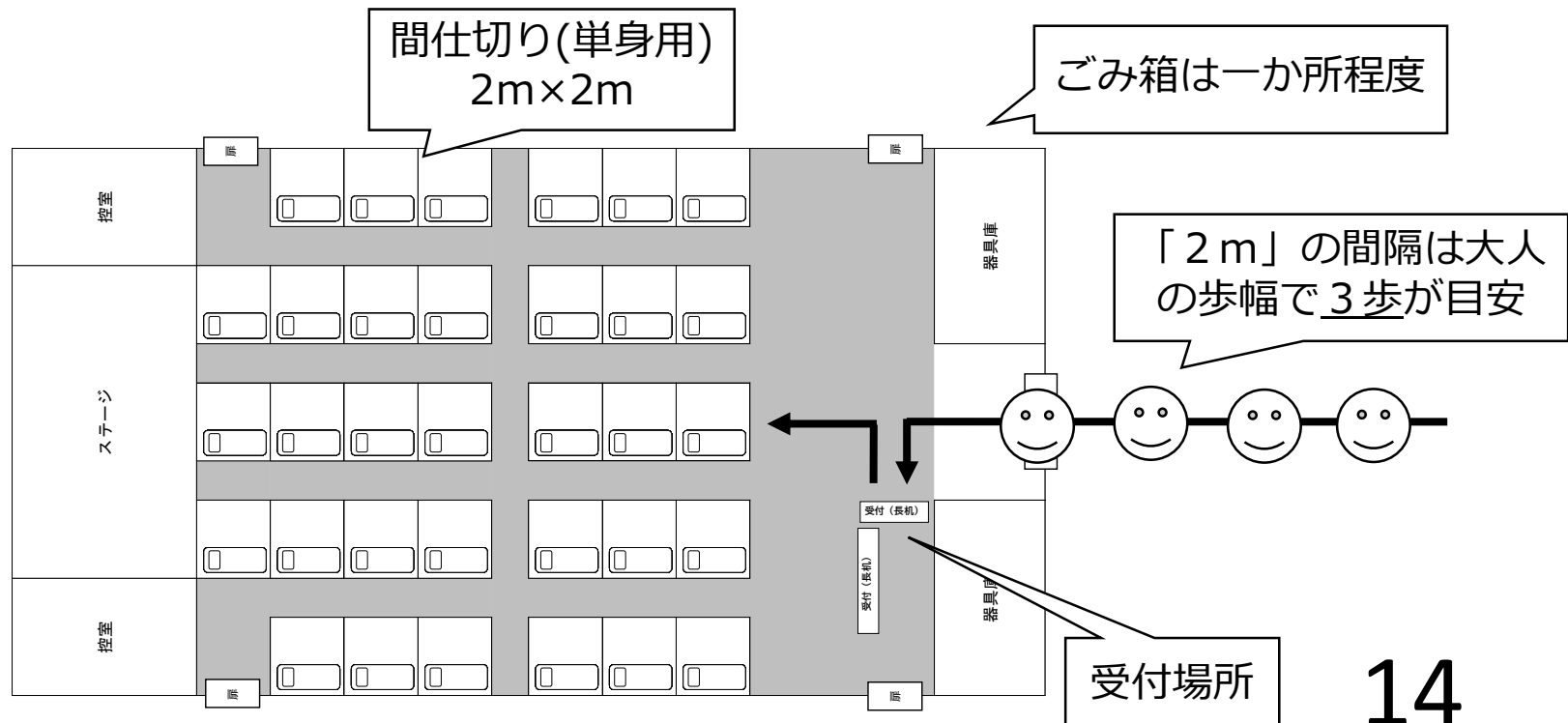


フロアマップ作成例

! コロナウイルス感染症が確認された場合、濃厚接触者等を速やかに把握する必要があるため、フロアマップ作成は有効と考えられます。

4. 訓練実施編 メニュー③ 一般エリア（設営）

- 受付用テーブルと椅子を設置する。
- 受付に避難者が2m（最低1m）で並べるか確認する。
- 間仕切りとベッドを2m（最低1m）間隔で設置する。
- 備品（体温計、消毒液、マスク、フェイスシールド、使い捨てゴム手袋、ゴミ袋等）を用意する。
- ゴミ箱は一か所程度に集約する。



4. 訓練実施編 メニュー③ 一般エリア（受入れ）

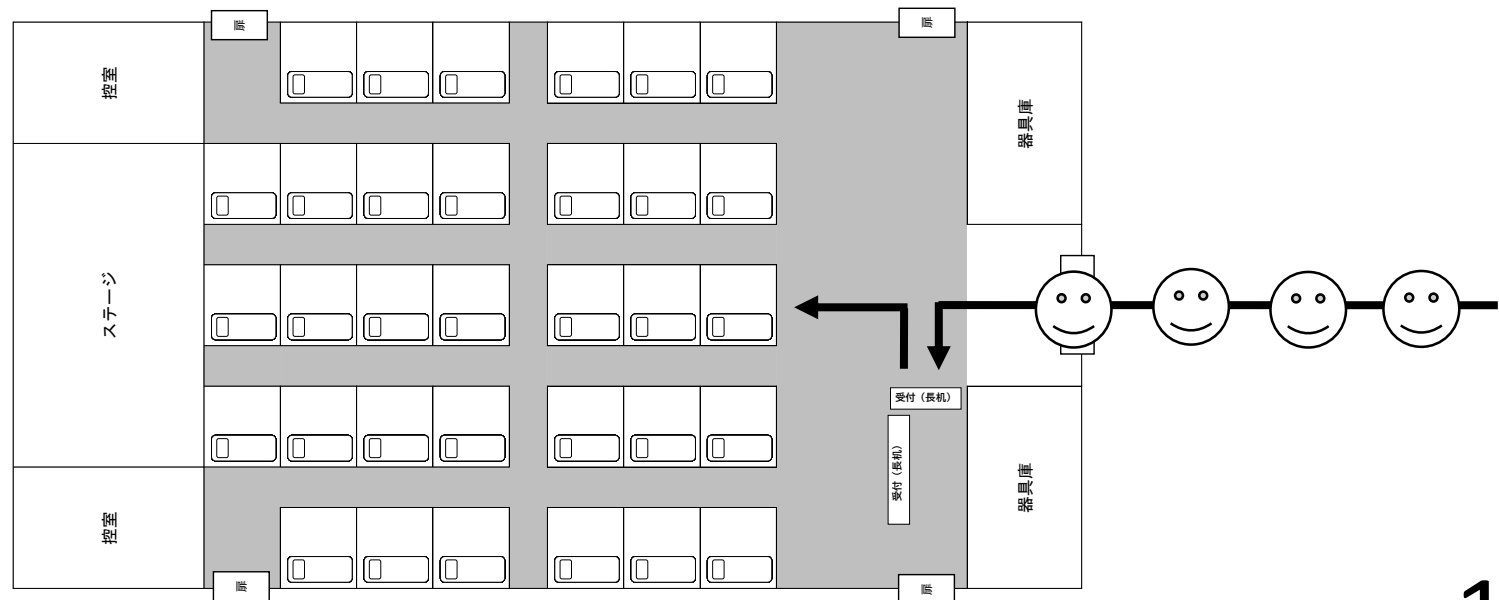
○受付で避難者に避難者名簿を記載してもらう。避難者が多ければ2 m間隔で並んでもらう。【想定：受付2名、避難者2名】

○受付担当は避難者へ避難者名簿を渡ししながら暫定的な受付簿を作成する。

○避難者を居住スペースに案内する。

※派遣職員は災害対策本部への報告をまとめる。（災害情報システムの確認）

※余力あれば避難者名簿の作成を行う。



5. 訓練後（共有化）：振り返りチェックシート

【使い方】

- (1) 「○」、「△」、「×」3段階の評価を記入する。
- (2) 評価の低かった手順について課題を洗い出す。
- (3) 課題を改善するための取り組み方について検討する。

※ 最後に地域、派遣職員、施設管理者で共有(データ、紙媒体いずれか)することが重要。

メニュー① 総合受付

総合受付を適切な場所に設置できたか

検温と症状チェックシートに基き、避難者が行くべきエリアを指示・誘導できたか

各動線が重ならないよう工夫できたか

メニュー② 体調不良者滞在エリア

A B Cエリア内に2 m（最低1 m）間隔で各避難者スペースを設置できたか

体調不良者は指示された滞在エリア、トイレをスムーズに確認できたか

受付担当はA B Cエリアの滞在者の区画を的確に把握できたか（フロアマップ）

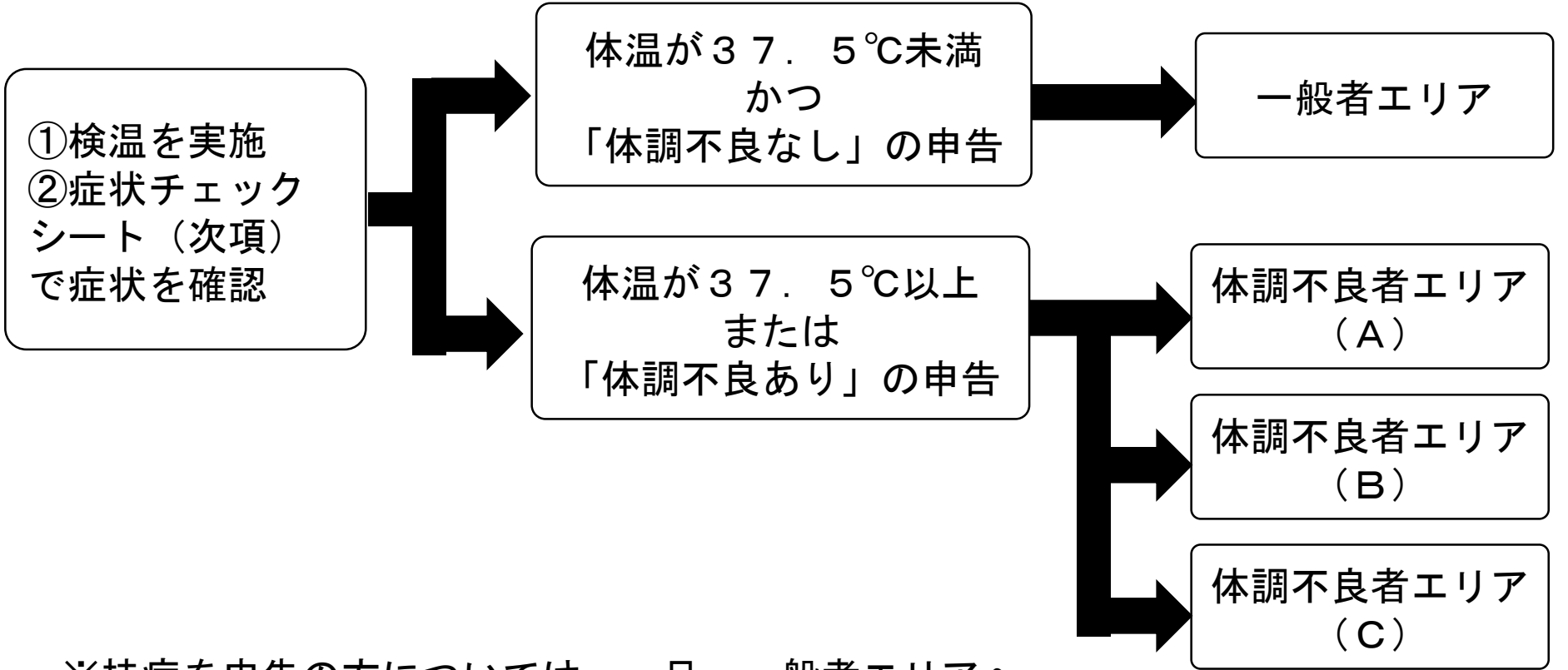
メニュー③ 一般エリア

2 m（最低1 m）間隔で各避難者スペースを設置できたか

避難者への受付カードの配布、暫定受付簿の作成は漏れなくできたか

避難者の居住区画への誘導はスムーズに行えたか

総合受付で行う健康者と体調不良者の振り分け手順



※持病を申告の方については、一旦、一般者エリアへ

症状チェックシート

該当する症状の番号を指さしてください。

①	症状無し	体育館等
②	咳が止まらない	<u>④、⑤、⑥チェック無し</u> Aエリア
③	ひどい頭痛 (※いつもにはない)	<u>④、⑤、⑥チェック無し</u> Aエリア
④	下痢の症状 (※いつもにはない)	Bエリア
⑤	おう吐の症状	Bエリア
⑥	新型コロナウイルスの 濃厚接触者等	Cエリア